

株式会社ソフトフロント

2011年3月期 通期決算説明資料

2011年5月18日

この資料に記載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況に関する説明における「期待」、「計画」、「見込み」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものには限定されません。口頭または書面による見通し情報は、広く一般に開示されるほかの媒体にも含まれる可能性があります。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られた当社の判断にもとづいています。実際の業績は、様々なリスクや不確実な見通しのみで全面的に依拠することはお控えいただけますようお願いいたします。

2011年3月期 通期業績の概要

取締役 財務・管理統括担当 佐藤健太郎

業績の概要

(単位：百万円)

	2010年3月期 通期	2011年3月期 通期	前年同期比 (%)	増減
売上高	651	783	120.2%	131
営業損益	△261	10	-	272
経常損益	△261	11	-	272
当期純損益	△291	8	-	299

電力系通信事業者向けシステム・インテグレーション分野が好調であったことなどにより売上高が前年同期から伸びるとともに、中期経営方針のもとで取り組んでいる一連の施策で経費を抑え、4期ぶりに黒字転換

「売上高」の状況

(単位：百万円)

	2010年3月期 通期	2011年3月期 通期	前年同期比 (増減額)
売上高	651	783	131
ソフトウェア販売	166	308	142
受託開発	485	470	△14
その他	—	4	4

電力系システム・インテグレーション分野やMFP分野を中心に主要顧客に対するソフトウェア販売が好調であり、前年同期に比べ大幅に増加。

受託販売に関しては、従前から継続している案件を中心に前年同期並みを維持。

「受注高」の状況

(単位：百万円)

	2010年3月期 通期	2011年3月期 通期	前年同期比 (増減額)
受注高	692	766	74
受注残高	73	56	△16

長期開発案件の発注期間が短く区切られる傾向にあり受注残高は減少。
従来から継続している案件がほとんどであり、通期業績への影響はないと考える。

2011年3月期：キャッシュ・フローの概要

(単位：百万円)

営業活動によるキャッシュ・フロー	33
税引前当期純利益	10
減価償却費	67
売上債権の増減額（△増加）	△102
仕入債務の増減額（△減少）	△20
その他	△78
投資活動によるキャッシュ・フロー	△75
財務活動によるキャッシュ・フロー	—
現金及び現金同等物の増減額	△42
現金及び現金同等物の期末残高	293
フリー・キャッシュ・フロー	△42

事業展開について

代表取締役社長 阪口克彦

「収益基盤拡大に向けて」－ 2011年3月期成果

2010年5月に掲げた「中期経営方針」のもと、「収益基盤拡大に向けて」重点的に取り組んできたことによる成果が以下のように上がっており、2011年3月期の業績につながっております。

今後のさらなる収益拡大に向け、より一層の取り組みを進めてまいります。

□安定した収益を確保できる分野の創出、拡大

→電力系分野が好調で売上増加に寄与

→ラドビジョン社との提携により、新たな可能性が開ける

→携帯電話向け録音サーバーやNGNシミュレータなど、製品ラインナップを拡充

□ライセンスビジネスに重点をおいた事業展開

→ソフトウェア販売が前年同期比で倍増

→ソフトウェア販売の売上に占める割合が、25.5%から39.4%に増加

「黒字体質への転換に向けて」－ 2011年3月期成果

2010年5月に掲げた「中期経営方針」のもと、「黒字体質への転換に向けて」という形で以下の点について重点的に取り組んでまいりました。

- ソフトウェア利益率の向上
- 外注加工費の流動化
- 業績連動給への完全移行
- 固定費削減

これらの取り組みにより、前年同期に比べ、売上原価61,600千円、販管費79,451千円の合わせて141,051千円節減し、売上高の増加と合わせ、通期で黒字転換を果たしました。（経常損益ベースで**272,387千円の改善**）

■ ソフトウェア利益率の向上

ソフトウェア資産のスリム化を図り減価償却負担を軽減することにより、原価を低減いたしました。ソフトウェア販売の増加とあわせ、ソフトウェア利益率が大幅に改善いたしました。

	2010年3月期	2011年3月期
ソフトウェア販売(千円)	166,257	308,599
ソフトウェア原価(千円)	135,183	92,349
ソフトウェア総利益(%)	18.7%	70.1%

■ 外注加工費の流動化

一部定常的に委託していた外注作業の内製化を進め、固定的な外注加工費を減少させることにより、外注加工費を半分以下に低減いたしました。

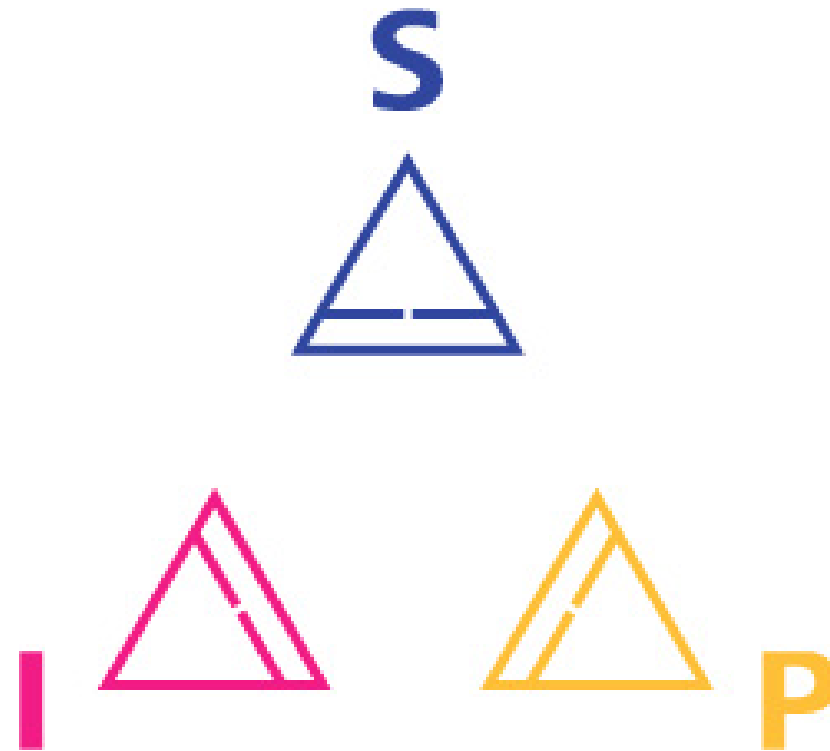
■ 業績連動給への完全移行

業績連動型賞与制度の導入ならびに人員減少により、前年同期に比べ人件費総額を1割弱、低減しております。

■ 固定費削減

全社にわたる経費削減の取り組みにより、人件費や販売に関わる費用を除いた管理費を、前年同期に比べ4.3%低減しております。

SIP connects the future



**ソフトフロントは SIP 技術を基に
社会変革の牽引役となり、豊かな社会を実現します**